










放射線治療

日付	月 日（ ）～ 月 日（ ）	月 日（ ）～ 月 日（ ）	月 日（ ）～ 月 日（ ）	月 日（ ）～ 月 日（ ）	月 日（ ）～ 月 日（ ）
	入院日～治療前日	治療開始 1 週目～2 週目	3 週目～5 週目	6 週目～7 週目	治療終了後退院日
目標	入院生活や治療について、医療スタッフの説明が理解できる	吐き気や嘔吐がない 性器出血がない 皮膚の手入れが看護師と一緒にできる 日常生活の注意点を知っている	性器出血がない 下痢がない スキントラブルがない スキントラブルがない 日常生活の注意点を知っている	性器出血がない 下痢がない スキントラブルがない 退院後の日常生活の注意点について理解できる	下痢がない スキントラブルがない 退院後の日常生活の注意点について理解できる
治療の準備	特殊なマジックで体に印（マーキング）をつけます マーキングを消さないよう注意しましょう 消えそうなときは、医療スタッフにお知らせください	放射線治療室から連絡があれば、H受付に行きましょう マーキングを消さないよう注意しましょう 消えそうなときは、医療スタッフにお知らせください	毎日の放射線治療時間は、 病棟看護師よりお伝えします ・子宮内照射（ラルス）を行う場合があります 前日までに看護師がスケジュールについて説明します 前日と当日は処置があります 治療室への移動は、看護師と一緒に車いすで行きます 詳細は「婦人科の放射線治療を受けられる方へ」のパンフレットをご覧ください		
治療		原則、治療は月曜日から金曜日の週5回行います 1 回の治療時間は、着替えを含めて約20分程度です			
診察		火曜日・金曜日は、治療終了後に放射線治療医師の診察があります 週1 回程度、婦人科医師と放射線治療医師と一緒に内診をします 内診の予定は前日にお知らせします 気がかりなことは医師に伝えましょう			
排泄	治療期間中、便秘・下痢に注意しましょう 必要に応じて、薬剤を使ってコントロールしましょう 治療開始2週目頃から下痢になることがあります 1 日5 回以上水様便が出る場合や粘膜があれてしまった場合は、医療スタッフにお知らせください		下痢中は、薬の調整以外にも、 食事の工夫や心身の安静が大切です お気軽に看護師にお知らせください		
検査	必要に応じて血液検査、尿検査等を行います				
検温 血圧測定	入院時に測定します	1 日1 回（10 時）に測定します	ご自身で、1 日の尿回数・便回数、便の性状の記録と 体温測定を行い、検温シートに記録しましょう 医療スタッフが確認に伺います		
食事	入院中は牛乳を飲まないようにしましょう（治療終了1 か月後まで） 水分は下痢中であっても、こまめにしっかり取りましょう 基礎疾患（糖尿病・高血圧等）がある方は、治療食になる場合があります * 食物アレルギーのある方は、医療スタッフにお知らせください		初回治療のときは、栄養士より病院食や食事の工夫について説明があります 2 回目以降、味覚障害や食欲不振等がある場合、栄養指導を希望される場合は、 お知らせください		
活動	自由に院内を歩行できます 体調に合わせて散歩して体力維持に努めましょう				
清潔	シャワー浴ができます （病棟入浴日に準じてお入りください） 体を洗うときは、マーキング部位を強くこすらないようにしましょう 皮膚の乾燥が強い場合は、医療スタッフにお知らせください				
その他	入院診療計画書、 入院オリエンテーション、 治療スケジュールについて 看護師より説明します	治療や退院後の生活に関する詳細は、外来で配布された 「婦人科の放射線治療を受けられる方へ」のパンフレットをご覧ください		退院が決定したら、 退院後の日常生活について、 看護師より説明します	

シスプラチン療法

日付	月 日 ()	月 日 () ~ 月 日 ()
	治療 1 日目	治療 2~3 日目
目標	副作用出現時は、医療スタッフに伝えることができる	
治療	 <p>呼吸が苦しい、吐き気がする、胸が苦しい、体が かゆい、気分が悪いときは、我慢をしないでお知らせ ください</p>	
内服	点滴開始時に、アプレピタント1カプセル内服します (看護師がお持ちします) 夕食後、オランザピン錠2錠内服します	朝食後、アプレピタント1カプセル内服します(治療3日目まで) テカドロン錠2錠内服します(治療4日目まで) 夕食後、オランザピン錠2錠内服します(治療4日目まで)
排泄	<p>治療期間中、便秘・下痢に注意しましょう 必要に応じて、薬剤を使ってコントロールしましょう 治療開始2週目頃から下痢になることがあります 1日5回以上水様便が出る場合や粘膜が剥がれてしまった場合は、 医療スタッフにお知らせください</p>  <p>治療開始後は フタをして水を 2回流しましょう</p> <p>医師の指示があるときは、点滴が始まったら尿量を測定しましょう(用紙は別でお渡します)</p>	
検査	抗がん剤投与前日は、血液検査を行います 必要に応じて、尿検査、胸部レントゲン、心電図を 行う場合があります	
検温 血圧測定	抗がん剤の投与前、開始5分後、終了時には、血圧、 脈拍を測定します	1日1回10時に測定します 
食事	点滴中は、点滴をしている側の手はできるだけ使わないようにしましょう 食事は、めん類やフルーツなどに変更もできます 看護師と相談しながら決めていきましょう	
活動	点滴終了後、体調に合わせてシャワー浴ができます 看護師がお手伝いします	体調に合わせてシャワー浴をしましょう 
副作用 説明	副作用と対策について説明します 1日目：過敏症、点滴部位の痛み・血管痛、吐き気・嘔吐、便秘、下痢、腎機能障害について 2日目：味覚障害・食欲不振について 3日目：骨髄毒性について	
その他	眠気が強いとき、めまいやふらつきなどがあるときは動く前にナースコールをしてください 針が入っていたところが赤くなった、腫れている、痛みがあるときは、すぐにお知らせください	

入院中の生活の注意点

- ◆治療中は免疫力低下のため、感染リスクが高くなります
マスクの着用、手洗い・うがいをしましょう
入院中、手洗いの動画をテレビの無料チャンネルで視聴できます
- ◆口の中は清潔にするように心がけましょう
- ◆排泄を促すために水分をしっかりととりましょう
- ◆膀胱に尿が溜まると薬が腎臓や膀胱を刺激し、炎症を起こしますので尿意を感じたら我慢をしないでトイレに行きましょう
- ◆排尿時に痛みや残尿感がある場合には看護師にお伝えください
- ◆正しく安全に点滴液を投与するために輸液ポンプを使用します
 - ・点滴が入っている部位を曲げたり、ねじったり、また、点滴チューブをひっぱったりしないようにしてください
 - ・歩行時は、点滴台を支えにして歩く転倒する可能性があります
点滴台は、支えにしないようにしましょう



こんなときは看護師にお知らせください

- * 輸液ポンプを使用しているときに機器のアラーム音が鳴ったとき
- * 点滴が入っている部位に違和感や痛みを感じたり、腫れてきたとき



- ◆抗がん剤治療開始から治療後2日間ほどは、尿や便などから抗がん剤が排出されます
尿や便に直接触れても健康に直接被害を及ぼすことはありませんが、
できるだけ周りに広げないように以下のことに注意しましょう

- ・尿がこぼれた場合は、トイレトーパーで
きれいに拭き取りトイレに流しましょう
2度拭き取ると良いでしょう
- ・トイレの後、フタがある場合は、**フタをして水を2回流しましょう**
- ・使用済みのナプキンや尿とりパッドは、以下のようにしましょう
 - * トイレ内に設置しているナイロン袋に入れて口を結びましょう
 - * トイレからナースコールを押して、看護師に渡しましょう



- ・トイレのあとは石けんなどでよく手を洗いましょう
- ・尿や吐いてしまったもので衣類が汚れた場合は、ほかの洗濯物と分けて洗濯しましょう



「がん化学療法を受けられる方へ」の
パンフレットを参照してください